JASE
現代性教育研究ジャーナル
MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2020年
No. 117
2020年12月15日（毎月15日）発行

日本性教育協会
THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2020 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

コロナ禍における性教育 ……1
ピアカウンセリング手法による性教育の萌芽・展開・展望 ……7
「ありのままのわたしを生きる」ために・その後④ …… 12
思いこみのめがね㉝ …… 13
多様な性のゆくえ㊹ …… 14
今月のブックガイド …… 15
JASEインフォメーション …… 16

コロナ禍における性教育

ヘルスプロモーション推進センター　岩室 紳也

コロナ禍における性教育は誰に必要

「コロナ禍における性教育」というタイトルは自由に変更していいとのことだったが、敢えてこのタイトルのまま原稿を書かせていただくこととした。コロナ禍で一番性教育が必要なのが大人だということを繰り返し見せつけられたからだ。

新型コロナウイルスについて公衆衛生医の立場で発信(1)し続けていたら某テレビ局から新型コロナウイルス対策のコメントをして欲しいと出演依頼がきた。テレビ局に入って打ち合わせをしていたら、若いディレクターが岩室のコンドーム柄のネクタイを指して「申し訳ないが視聴者からクレームが来ると困るのでネクタイを変えて欲しい」と言ってきた。事前に話があっても断っていたが、その場で別のネクタイを用意されて「はいそうですか」と岩室が承知するはずもない。

さらに番組の中で話の流れから「新型コロナウイルスはキスでうつる」と話したらスタジオが騒然となった。一人ひとりの混乱の原因を勝手に想像すると、昼間の番組で「キス」という言葉を使うなんてと思った、そもそも「キス感染」という発想がなかった、自分自身の昨今のキスのことを思い返して急に不安になった、いろんなことが思い浮かぶが、正直なところ、何でたかが「キス」でこんなに大騒ぎをするのか不思議とともに面白かったというのが正直なところだった。うんと小さいエアロゾルでうつるとか、エアロゾルより大きい飛沫を吸い込んでうつることを心配しているのであれば、それらよりもはるかに大量のウイルスを含む唾液の交換が危ないに決まっている。その後も「キス感染に注意」という報道はほとんど聞かないが、新型コロナウイルス感染症は立派な性感染症である。

別のテレビ局が「夜の街応援！プロジェクト」(2)として新型コロナウイルス対策の訪問指導をしている場面を取材にきた際に、ディレクターに「もっとキスで感染することを報道して欲しい」とお願いしたらびっくりする返事が返ってきた。「キスで感染するのは常識過ぎるので放送する必要はない」とのこと。開いた口が塞がらないというのはこういうことである。本気

で国民の常識と思っていたらとんでもない誤解であり、上司を説得する気もないというのであればマスコミ人失格である。報道も教育も自分の思いや価値観ではなく、対象のニーズに合わせて必要な情報を的確に伝えることが基本であるが、この返答にはただただあきれるばかりであった。それなりの企業で活躍している若い人たちがこのように性ときちんと向き合おうとしないだけではなく、クレーマーや職場の上司に気を使って新型コロナウイルスでのキス感染のような、一人ひとりの国民にとって必要不可欠な情報提供を拒むことは危機的といえる。性教育の対象を子どもたちだけではなく、若い世代の大人たちにも広げる必要性を痛感させられた。

子どもたちにとっての「性」は大人にとっての「新型コロナウイルス」と同じ

皆さんは新型コロナウイルスをどのようにとらえ、どのように対応しているのだろうか。そして今の自分自身の新型コロナウイルスの知識は適切だと思っているのだろうか。岩室は臨床医として HIV ／ AIDS をはじめ、様々な性感染症の診療に関わる一方で、公衆衛生医として結核、O157、ノロウイルス、インフルエンザなどに対応してきた。また、性教育だけではなく、健康教育全般の中で様々な感染症の予防に関する普及啓発を行ってきた。そのような経験があったにもかかわらず、さすがに新しい感染症である新型コロナウイルスをどう受け止め、どう普及啓発をしていけばいいかについて日々迷い、模索を今でも繰り返している。様々な情報を自分なりに受け止めながら、いろんな人とのコミュニケーションを通して自分の考え方を検証、修正し続けてきた。ところがある時、興味深いことに気づかされた。自分自身が新型コロナウイルスへの対応で繰り返してきた作業は、思春期以降に自分自身の性、二次性徴の発来で日々変わる自分の体や心と向き合っていた時の作業と同じだった。

中国武漢で患者が報告されても他人ごと。自分の周囲で「毛が生えた」という友人がいても他人ごと。

気がつけば日本でも感染者が出て慌てていろいろ情報収集。自分も毛が生えて大慌てで情報収集。

その後は新型コロナウイルスについて日々情報収集、他人との意見交換、情報発信の繰り返し。自分自身の二次性徴、マスターベーション、性欲等々でも同じく情報収集、仲間やパートナーとの意見交換、お互いの情報発信の繰り返しだった。

自分が経験するまでは他人ごと。経験して初めて自分ごとになって慌てふためくのが人間なのかもしれない。

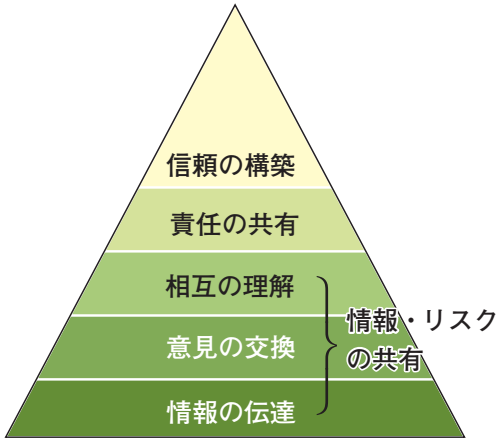
子どもたちにとっての「性」は大人にとっての「新型コロナウイルス」と同じ未知の世界との遭遇である。すなわち、子どもたちが受けている性教育は、まさしく大人たちが受けている新型コロナウイルス教育と同じである。では、大人たちはいま、専門家が、マスコミが行っている新型コロナウイルス教育のおかげで正しい知識を得、正しい予防行動ができているのだろうか。できているとしたらこんなに感染は拡大しないはずである。では教育が悪いのか、受け手の問題なのか、それとも他に要因があるのか。

性教育に必要なリスクコミュニケーション

岩室が新型コロナウイルスと向き合ってきたプロセスも、自分自身の性と向き合ってきたプロセスも結果としてリスクコミュニケーション（下図）[3] だったと今更ながら気づかされた。「性」と向き合うにも、「新型コロナウイルス」と向き合うにも、最終的にきちんと向き合えるようになるには、正しい情報提供だけではなく、個人の努力だけでもなく、仲間を含め、多くの人とのリスクコミュニケーションが不可欠であった。

多くの人は性教育の目的を正しい情報の伝達と思っている。確かにそれは重要なことだが情報の伝達だけ

図　リスクコミュニケーション 5つの段階



では不十分であることもまた多くの人が感じている。男女がセックスをする際に必要なリスクコミュニケーションを５つの段階に沿って考えると理解しやすい。

セックスをすれば妊娠や性感染症のリスクがあるという情報の伝達は不可欠となる。その上で、セックスをしたいか否か。セックスをするリスクは何か。リスクを避けるにはどのような手段があるのか。このようなことでの意見の交換が必要不可欠だが、そもそもこのような意見の交換ができる関係性か否か。さらには意見交換をするコミュニケーション能力があるのかが問われることになる。どちらかがセックスを避けたいとしたときに相手が理解してくれるか、受容してくれるか否か。セックスをするとなった場合に避妊や性感染症予防に失敗した時の責任をどう共有するのか。このようなリスクコミュニケーションが成立すれば自ずと信頼関係の構築が達成されているはずである。すなわち、リスクコミュニケーションは信頼関係の構築の過程であり手段でもある。

新型コロナウイルス対策で欠けているリスクコミュニケーション

「新型コロナウイルスがキスで感染するのは常識」と言ったディレクターはリスクコミュニケーションの基本となる情報の伝達を拒否しただけではなく、意見交換も拒絶していた。もちろん岩室との間に相互の理解もなければ、キスで感染した人に対する責任も取らない。このような関係性で信頼は構築されない。ではこれまで新型コロナウイルスに関して繰り返されてきた「マスク」、「手洗い」、「換気」、「３密回避」という情報しか伝達してない人たちのリスクコミュニケーションに問題はないのだろうか。

反省を込めて言うと、岩室は HIV ／ AIDS 予防に取り組んでいた初期の頃、HIV 感染予防には「ノーセックス」か「コンドーム」と強調していた。しかし、後にこのメッセージがいかに稚拙であり、多くの人を傷つけていたか。さらには万が一このメッセージを岩室から聞いた人が HIV に感染したら、岩室の HIV ／ AIDS 外来に来てくれないことに気づかされ、愕然としたのを覚えている。「ノーセックス」か「コンドーム」というメッセージはただただ正解を押しつけていただけで、そこにはリスクコミュニケーションの視点がない。

正解依存症

新型コロナウイルス予防での「マスク」、「手洗い」、「換気」、「３密回避」も、HIV/AIDS 予防で「ノーセックス」、「コンドーム」も単に正解を伝えているだけである。正解を求める国民もマスコミから流されるこれらの情報を他の人と検証することなくただただ鵜呑みにしている。「３密」は流行語大賞を取り、「密、密、気をつけろ」と生徒を叱っている教師が後を絶たない。正解を与えようとしている専門家たちも、自分たちが発信している情報が今のままでいいのかを検証することを怠っている。国民も専門家も正解を追い求めるだけの正解依存症になっている。

岩室が考える正解依存症とは「自分なりの正解を見つけると、その正解を疑うことができないだけではなく、その正解を他の人にも押し付ける、自分なりの正解以外は受け付けない、考えられない病んだ状態」である。マスク警察も、同じことしか言えない専門家たちも正解依存症である。

もっとも、自殺対策では「悩んだら相談しよう」、「いのちを大切に」、「SOS の出し方教育」、薬物対策では「ダメ絶対」、SNS トラブル対策では「情報モラル教育」をと、国も専門家も様々な対策で正解を伝えるだけで満足している正解依存症といえる。

目から入る情報でわかったような気に

多くの人は新型コロナウイルス関連の情報をテレビや新聞等の目から入る情報として入手している。その結果、わかったような気になってはいないだろうか。北山修は、「目から入る情報はわかったような気になるだけだが、耳から入る情報は想像力を育み記憶に残る」[(4)] と教えてくれていることに学べば、いま、多くの国民が正しいと思っていることの中には間違った知識や誤解が少なからずあると考えた方がいい。

岩室は中高生向けの講演をマイク一本で行っている。それは中高生が受け取った情報について、自分自身の想像力の中で考え、受け止めてもらいたいという思いからだ。一方で大学生以上の大人向けには映像である PowerPoint を使っているが、単に正しい情報を伝え

るのではなく、その情報の根本にあることを含めて伝え、理解を深めてもらうためである。しかし、そのような講演を一回見聞きしただけでは理解できないことを想定し、講演で使用したPowerPointを公開している。

マスクに関するリスクコミュニケーション

新型コロナウイルスが流行し始めた当初、マスクが店頭から消え、政府から布製のマスクが配布された。今ではマスクは一大市場となり、様々な種類のものが当たり前のように販売されている。しかし、マスクの本来の意味もきちんと理解されていないばかりか、フェイスシールドやマウスシールドがまるでマスクと同じ機能があるかのように誤解されている。

マスクはあくまでも感染している人が咳や会話時に排出する飛沫が拡散しないようにするためのものであり、材質の違いで飛沫やエアロゾル拡散防止効果も異なる（下写真）[(1)]。布製のマスクは飛沫をそれほど通さないが、マスクを装着していない時より多くのエアロゾルが排出する。ポリウレタンマスクはエアロゾルの排出が増えるだけではなく飛沫も通す。不織布マスクが一番飛沫もエアロゾルも抑えるがメガネが曇ることからも隙間からエアロゾルが出ている。一方でフェイスシールドやマウスシールドは顔とプラスチック製のシールドとの間に隙間があるため、そこから飛沫が落下する。テレビの料理番組でフェイスシールドやマウスシールドを装着して調理をしている人が後を絶たないが、落下した飛沫は料理に付着して接触（媒介物）感染する。

ちなみに、口から排出されても直下に落下する500μmの大きな飛沫と2メートル先まで飛ぶとされる5μmの小さな飛沫の体積差は100万倍である。当然のことながら大きな飛沫に含まれているウイルス量は膨大であり、これらが付着した料理を食べれば、飛沫やエアロゾルを吸い込むよりはるかに感染リスクが高い。

写真　マスクの材質とエアロゾル、飛沫拡散

たかがマスクだが、マスクの意味とリスクをどれだけの国民が理解をし、実践しているだろうか。繰り返しになるが、岩室が日々情報をバージョンアップできているのは決して一人だけの努力ではなく、多くの人たちとのリスクコミュニケーションの結果である。マスク一つとっても、正しい情報を伝えることは至難の業である。ましてや性について正しい情報を伝えることはもっと難しいことだと自分に言い聞かせている。

コンドームに関するリスクコミュニケーション

改めて自分自身が発信していた「ノーセックス」か「コンドーム」というメッセージの問題点を指摘したい。パートナーがセックスを求めてきても、自分はしたくないからしないと拒否できている間はいい。しかし、拒否できないとしたら、なぜできないのかをフォローした支援が必要となる。もし自分もセックスをすることに同意した場合、ではお互いにコンドームが使えるか。ちゃんと事前に入手できているのか。コンドームの達人のYouTube[(5)]を見た上で、事前に練習をしたのか。使ったとしても予防できない性感染症に罹患するリスクを知った上で覚悟ができているのか。コンドームが破れた場合の対策として緊急避妊ピルのことを知っているのか。どこに連絡をすればすぐ入手できるかを事前に確認しているのか。このようにいろんな情報を入手しておかなければならないが、それだけの情報の入手ソースを持っているのか。たかがコンドーム、されどコンドームである。

実はコンドームで一番難しいのが、コンドームという言葉を他者と共有することである。先に紹介したように、コンドームのネクタイがテレビ番組に登場することさえもはばかられる風潮がある中で、コンドームに関するリスクコミュニケーションを諮ることのハードルは非常に高い。実際、中学校や高校でコンドームの実物を紹介し、装着することを拒否する学校もあるが、容認する学校もある。その違いはまさしく装着法を紹介している岩室と教師、さらには生徒を含めた責

任の共有、信頼関係の構築ができているか否かの違いである。

感染症対策で繰り返されるヘイトスピーチ

性感染症では信頼関係の構築を阻害するメッセージが繰り返し発信されている。HIV／AIDSの初期の頃、感染拡大を防ごうと多くの人から「不特定多数との性交渉」、「風俗産業」、「男性同性間性的接触」、「ハッテン場」といったハイリスクな人を見つけ出し、その人たちがいる場所や危険な行動を避けるような呼びかけがあった。一見合理的にみえるこのような呼びかけはかえって感染している人たちに対する偏見を生み、異性愛者が感染を知ると「どうして異性愛者の私が」という誤解が広まった。

新型コロナウイルス対策でも「夜の街」、「ホストクラブ」、「接待を伴う飲食店」といった性的なイメージが付きまとう場が名指しで非難され、まるでそのような場にいる人が感染を拡大させている犯人かのごとく扱われてきた。政治家が「“夜の街”要注意」といったプラカードを持って記者会見をしている姿はヘイトスピーチそのものである。

法務省はヘイトスピーチを「特定の民族や国籍の人々を、合理的な理由なく、一律に排除・排斥することをあおり立てるもの」と定義している。新型コロナウイルス対策でのヘイトスピーチは「特定の地域や職業の人々を、合理的な理由なく、一律に排除・排斥することをあおり立てるもの」ではないかと指摘すると、合理的な判断だとの反論を受ける。広辞苑では「合理的」は「①道理や理屈にかなっているさま。②物事の進め方に無駄がなく能率的であるさま。」と書かれているが、特定の地域、場面、職業を排除することで成功した健康づくりはない。

なせホストクラブでクラスターが

HIV／AIDSが紆余曲折はあっても、結果として社会の偏見や誤解を少しずつ払拭する方向に動けたのは、何より当事者の活動があったからである。薬害エイズの問題を解決したのは紛れもなく、薬害の被害者の人たちであった。男性同性間性的接触での感染拡大の当事者たちがカミングアウトした結果、今ではゲイの人たちだけではなく、LGBTQへの理解が広がりを見せている。岩室は様々な活動を通して薬害エイズの被害者やゲイの人たちとつながるだけではなく、刺青で感染した人たちや望んだ妊娠を契機に感染が判明した人たちと接してきたからこそ、「感染している人」や「どこで感染したか」ではなく、「ウイルスはどこから、どこへ、どうやって」という感染症予防の基本にたどり着いた。だからこそ「ホストクラブでクラスター」と聞いた瞬間、頭の中に「キス感染」が浮かんだ。

性感染症の診療をしていると、いろんな職業の人たちに関わる。泌尿器科医というと男性患者、婦人科が女性患者と思われがちだが、梅毒は皮膚科でも、泌尿器科でも、婦人科でも診ているが、勤務している厚木市立病院だと何故か岩室の外来に回される。その結果、同じ風俗店であっても、女性客を相手にしているホストと男性客を相手にしている風俗嬢とでは仕事上だけではなく、様々な場面での性生活が異なることを知るところとなる。

ホストが女性客とキスをすることや、アフターと称して一緒に食事をするだけではなく、セックスすることもある。一方で風俗嬢はフェラチオなどのサービスを提供するものの、男性客とキスをしないため、男性が遊ぶ風俗店で新型コロナウイルスのクラスターが発生したという話は聞かない。感染症対策も、性教育も、感情論や価値観を取り除いた上で、きちんと、科学的、論理的に行う必要があるが、それができないのがまた人間であることを今回の新型コロナウイルスの混乱が示している。ちなみに梅毒になった人たちのほとんどが、コンドームが梅毒の予防効果が限定的であることを知らない。

夜の街応援！プロジェクト

HIV／AIDSで当事者に学んだように、新型コロナウイルスでヘイトスピーチを浴びせられている当事者に会い、できることを一緒に考えたいという思いで立ち上がったのが「夜の街応援！プロジェクト」[(2)]である。実際にホストクラブやゲイバーを始めとしていろんな店舗を訪問し、その店や業態に則した、具体的なアドバイスを行っている。

ホストクラブでのキス感染をどう防ぐか？

純潔教育的に言えばノーキス、キス禁止しかない。もちろんそれは一つの選択肢だがそれ以外の方法を提示できなければ感染症予防の専門家とは言えない。リスクをゼロにはできないが、キスの前に「素敵なキスに乾杯！」とシャンパンなどのアルコール類を飲んでお互いの口の中のウイルスを胃に流して減らす。キスの後にも「素敵なキスに乾杯！」と口の中に入った相手のウイルスを胃に流すことを勧めている。このようなアドバイスができるのも、ウイルスはどこから、どこへ、どうやって、という基本に忠実だからである。

コロナ禍でやりやすくなった性教育

2020年8月頃から学校現場で直接生徒に話す、マイク一本の性教育講演会を再開している。新型コロナウイルス感染拡大の前と比べ、確実に生徒の理解が高まっていると感じるのが性感染症予防である。大人も同じだが、目に見えない病原体に感染し、しかも症状が出ない人もいるというのを感覚的に理解することは難しい。しかし、新型コロナウイルスを通して、正しく理解されているか否かは別として、「感染」、「発症」、「無症候性感染」、「感染経路」といったことがある程度子どもたちの中に入っている。

生徒は全員マスクをしているが、2メートル以上の距離を確実にとった状態で岩室はマスクを外す。「新型コロナウイルスは飛沫で感染するけど、飛沫は何メートル飛ぶ？」と聞くと「2メートル」と答えられる生徒は少ない。さらに「全員マスクを外してみて。すごく息が楽になったよね。その状態で手のひらに息を吹きかけると手のひらが湿るのがエアロゾル。エアロゾルは体育館の扉が開け放たれているので空気の流れに乗って拡散させて予防するしかない。マスクをしていたらかえってエアロゾルをいっぱい出していることになる。咳を手のひらにかけるとベトッと湿るのが飛沫で2メートルしか飛ばない。みんな岩室の方を見ているので、前の人の頭の後ろについたとしても口の中に入らなければ感染はしない。若い人で感染するリスクが高い行為はキス。だってキスだと飛沫よりも大量のウイルスを含んだ唾液の交換が起きる」と一気にたたみかける。

生徒だけではなく一緒に聞いている教師も、「えっ、キスもダメ!?!」となり、恥ずかしさとか、そこまで話すか、といった思いは吹っ飛び、自分自身の問題としてどうとらえればいいかを考え、その後の様々な性の話も、ごく当たり前の、真剣な科学的な話として受け止めてくれる。

性教育はよく生きるための教育といわれるが、性教育をしている人こそ、このコロナ禍で新型コロナウイルスのことを正確に、科学的に学習し、性教育の中に盛り込んでいただきたい。そうすることで、今まで以上に生徒の、教師の心に響く性教育になることを実感していただければ幸いである。

【参考文献・インターネット】
（1）http://iwamuro.jp/corona
（2）https://yorunomachiouen.wordpress.com/
（3）https://resilient-medical.com/risk/communication-definition-example
（4）北山修：『最後の授業』みすず書房、東京、2010
（5）http://iwamuro.jp/shyo/youtube

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

資料室利用方法

【閲　覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。
【開室日・時間】月～金曜日 11：30 ～ 16：30（コロナ感染拡大予防のため、開室時間を短くしています）
【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始　※この他、会議等で臨時に休室することがあります。
【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。
https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html

収集文献・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイアモンド文庫、ほか。
https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi

〈日本性教育協会創立 50 周年記念・特別寄稿④〉

ピアカウンセリング手法による性教育の萌芽・展開・展望

日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会代表
自治医科大学名誉教授 髙村 壽子

指導型性教育から、ピア：仲間による主体的な行動変容を支える性の健康教育へ

昨今ますます多様多岐化する性の問題・課題解決にあたって、正しい知識を教えて行動を改善する指導型性教育、換言すれば伝統的性教育は、受け手の思春期の若者にとっても担い手である教師や専門家等にとっても、実施後の満足感や達成感を感じ取れないまま主体的行動変容にほど遠く、が故に働きかける手法の発想の転換が現在もなお求められ続けている。

時をさかのぼること 2001 年厚生労働省は今後 10 年間継続実施する国民運動計画として「健やか親子 21（第一次）」を発表し、達成すべき筆頭課題に「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」を掲げた。保健サイド施策で思春期の若者をターゲットとして顕在化させたことと、併せて従来の方法からの質的転換手法として、ピアカウンセリング（仲間相談活動）などの思春期の子どもたちが主体となる取り組みの推進、同世代から知識を得るピアエデケーション（仲間教育）の取り組みを明示したことは画期的であった。

この手法が明示された背景には、我が国が世界的先進国にもかかわらず、思春期妊娠・中絶、性感染症罹患率の急増が問題となっていたことに起因する。因みに、この統計は日本性教育協会が 6 年に 1 回実施している「青少年の性行動全国調査」でも如実であった。

先進国では既に実践され成果を上げていた手法にもかかわらず出遅れていた我が国で、思春期の若者同士で学びあい・支えあい、主体的な自己決定能力と望ましい行動変容を獲得することを目的としたピアカウンセリング手法によるピアエデュケーションという健康教育が、新しい性教育の手法として浮上してきたのである。なお、健やか親子（第一次）は 10 年間の評価で、その効果が認められたとのことで、さらに「健やか親子第二次」として、10 年間継続実施されている。

性教育の新戦略としてのピアカウンセリング手法とは

新戦略としてのピアカウンセリング・ピアエデュケーション（仲間教育）とはどのようなものか、具体的な実践展開はどのようにすればよいのか等検討するために、2002 年から 4 年間「ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成と効果的普及に関する研究」と「性に関する思春期教育のためのマニュアル作成の開発と教材作成に関する研究」の 2 つの厚生労働科学研究班（以下、厚労科研）が設置され、実践を踏まえて研究討議された。

1. ピア：仲間とは、思春期ピアカウンセラー®とは

先ず検討されたのが、思春期の若者にとっての仲間：ピアの定義であった。親でもなく、教師でもなく思春期の若者にとって最も身近に信頼できる存在であり、同じ世代に生きる価値観を共感・共有する仲間を「ピア」と称することとし、世界のピア活動をけん引している国際家族計画連盟（以下、IPPF）の 2 つの要素に則り、①仲間意識〔価値観・趣味志向（とくに音楽）・服装・化粧などが同じという意識〕から、安心感・信頼感を感じる人、②批判されないで、考えや行動を共感・共有できる人と定義した。

次にピアカウンセリング手法による性教育の担い手になる思春期ピアカウンセラー® は、受け手と同じ知識・意識レベルでは逆にピアプレッシャーとなる可能

性があるので、知識・スキル共にトレーニングを受けることが必須（IPPF）であり、思春期ピアカウンセラー® 養成講座を実施するための養成カリキュラムを編成した。ここでは前期ベーシックコースのカリキュラム（表 1）を紹介する。また、思春期ピアカウンセラー® の活動年齢は世界の定義によると 14 ～ 24 歳だが、我が国の成人式儀式を踏まえて養成年齢は高校生 15 歳から原則成人式前の 19 歳までとした。

現在、厚労科研ピア研究班の研究成果を踏まえて発足した日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会が構築した、ピア活動継続システムによるスーパーバイズの下に、一定水準を担保する表 1 の養成カリキュラムによる思春期ピアカウンセラー® 養成講座（ベーシック・フォロアップ）で養成された思春期ピアカウンセラー® が、各県でピアカウンセリング手法による性教育をはじめ様々な活動に生き生きと真摯に取り組んでいる。

2. ピアカウンセリングとは、ピアカウンセリング手法による性教育とは

a. ピアカウンセリング：仲間相談活動とは

厚労科研研究班ではまずピアカウンセリングについて、「誤った情報に振り回されパワーレスになっている仲間に、一対一，または対集団を対象にピアカウンセリング

表 1　日　程　表（案）

4 日間共受付　⇒　8：30開始

	第１日目 12月19日（土）		第２日目 12月20日（日）		第３日目 12月26日（土）		第４日目 12月27日（日）	
9：00	9：00	開講式 ・挨拶 ・オリエンテーション	9：00	エクササイズ	9：00	エクササイズ	8：30	各グループ 発表準備
	9：15	オープニングエクササイズ 自己紹介	9：30	コ・カウンセリング実習（相互カウンセリング）と振り返り	9：30	セクシュアリティ各論Ⅰ ・妊娠・出産		
10：00	10：15	・ピアとは ・ピアカウンセリングとは ・ピアカウンセリングの基本概念 ８つの誓約 ・効果的なピアカウンセラーになるためには	11：00	小集団を中心としたピアカウンセリング	10：30	セクシュアリティ各論Ⅱ ・避妊・ピル	10：00	実演発表 １グループ15分
11：00			11：30	昼食	11：30	昼食		
12：00	12：30	昼食	12：30	自己決定能力を高めるエクササイズ ・価値討論	12：30	セクシュアリティ各論Ⅲ ・性感染症（子宮頸がんも含む）	12：30	昼食
13：00	13：30	アクティブリスニング ・基本的向き合い方 ・オープンクエスチョン ・パラフレーズ ・パラフレーズ	14：00	セクシュアリティ総論Ⅰ ～人間にとって性とは～ ライフライン	13：30	ピアカウンセリング手法による性教育講座の実践展開に向けて（実践企画の紹介）	13：30	講評・まとめ
14：00							14：30	・ピアカウンセリング相談の実践展開に向けて
15：00	15：30	・感情と向き合う -感情の言葉探し -情と向き合う４つのステップ ・要約スキル ・統合スキル	15：30	セクシュアリティ総論Ⅱ ・思春期の性			15：30	閉講式 修了証書授与 終了
16：00						各グループ作業		
17：00	17：00	終了	17：00	コミュニケーション能力を高めるエクササイズ ・ネゴシエイト				
			18：00	終了	19：00	終了		

☆ 休憩は適宜はさみます。
☆ 講座内容は全国共通日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会カリキュラム（厚生労働科学研究ピアカウンセリング研究班作成）に準拠しました。
☆ 後期講座についてのカリキュラムは前期講座中で紹介します。

を行い、性＝生の問題に正しく対処できる自己決定能力や問題解決能力を高める活動」と定義している。

b. ピアカウンセリング手法による性教育とは

現在実施されている思春期ピアカウンセラー® による学校に出向いての性教育は、ピアカウンセリング手法による性教育であり、以下の２つの要素を加味して実施展開されている。

①IPPFの定義の、あるテーマ（問題・課題）に対して、正しい知識・スキル・行動を共有しあうことを大前提としている。

②テーマに対する興味関心を喚起する教育方法で、指導型でなく共感・共有を重視する性教育。具体的には、グループダイナミックス理論に基づき、基本形は６人くらいの小集団（中に思春期ピアカウンセラー®が１～２名入る）を前提とし、提供された知識・スキル・行動を、共感・共有しあいながらどうするか一緒に考え（態度変容）、自己決定による主体的な行動変容を支える性教育 である。

ピアカウンセリング手法による性教育の実践

1. 保健サイドと教育サイドの連携による中学校における実践活動

T 県の南部にある O 市では、保健サイドが予算編成をして担当の保健師がピアコーディネーターとなって O 市教育委員会の保健指導主事と密に連携しながら実践している。

市内 11 中学校の中から毎年３中学校（対象学年は２年生）と不登校施設を選び自治医科大学ピア部と密接に連絡しあいながら、取り組んでいる。紙面の関係上、詳細は省くが、実施プログラム（次ページ表２）と中学校と不登校施設での状況を紹介する（写真１、２）。

２. 東日本大震災復興支援7年間の実践活動

2011 年３月未曽有の東日本大震災が発生し、日本性教育協会では 2013 年から復興支援事業としてパワーレスになった被災地の中・高校生を対象にピアカウンセリング手法による性教育やピアカウンセリングを７年間継続実施した。その活動内容と成果は、本誌に３度特集として掲載されたので、ここでは小学校６年生の時に被災し、５年経過し今、現在将来を考えなければならない時期に来ている女子高生の受講の気持ち

写真１　不登校施設でのピアカウンセリングによる性教育実施状況

「僕のライフライン（人生設計）を聞いてくれるかな？」

「私のたいせつなもの……それは音楽なんだ……」

写真２　中学校における実施状況

「人が人を好きになる気持ちって、いろいろなんだ……」

「心の性と身体の性が違うって……ね…。」

表2　　○○中　タイムテーブル

R2.2.19（水）　①12：50～14：20（1、2組）　②14：30～16：00（3、4組）

タイトル　「道～未来への光～」

全体の目的

(1) 自分自身と向き合い、改めて大人に近づいていることを自覚することができる。
　　立志式を終えて、芽生えてきた大人への自覚を深め、自立につなげることができる。
(2) 自分にも相手にも素敵なことがあることに気づき、自分のことも、相手のことも大切に思えるようになれる。
　　新たな自分自身の発見が、自信につなげられる機会になる。
(3) 相手のことも考えながら、自分の行動を自分で考えて決定することができるようになれる。

時間	主内容	具体的内容・方法	目的	物品	備考
①12：50 ②14：30 ［5］	挨拶 自己紹介 ラポール	・ピアの紹介 ・ピアっ子自己紹介	・ピアっ子を知ってもらう ・緊張をほぐして、話しやすい雰囲気を作る ・ピアっ子と仲良くなる	・ピア説明の紙 ・ハッピールール ・タイトル ・名札の紙 ・ラポールの紙 ・ラジカセ ・いす	あいさつ ねこバス
①12：55 ②14：35 ［15］	色いろいろ	・色いろいろ	・自分の気付いていない、新たな自分を発見するきっかけを作る ・新たな自分の発見により、自分を愛する気持ちを回復・向上する ・仲間の素敵な所に改めて気づく	・いろいろ色の紹介の紙 ・色と理由を書く紙 ・タイトル	音楽（テーマに合ったCD）
①13：10 ②14：50 ［30］	ライフライン	説明・書く・発表 ［7］・［13］・［10］ ・ピアっ子のライフラインを例として示す ・みんなに自分のライフラインを書いてもらう ・グループ内でそれぞれライフラインを発表しあう（グループシェアリング）	・自分の人生を考えることで自分自身を見つめるきっかけを作る ・過去,現在,未来について考え、どれも大切な自分であることを知る ・みんなのライフラインを見て、自分とは違う人生があることを知る ・ライフラインを大切にすることは自分を守ることにつながることに気付く ・自分の人生について考えることで、大人に近づいていっていることに改めて気づく	・ライフライン 模造紙 ・ライフラインを書く紙	説明 音楽（テーマに合ったCD） 書く ピアノ曲 発表
①13：40 ②15：20 ［15］	アンドロギュノス（LGBT）	・アンドロギュノスの神話の紹介 ・インタビューを通してグループでシェアリングする	・自分たちは不安定であるからこそ誰かを求めるのは自然なことだと知ってもらう ・人を好きになることは自然なことだと知ってもらう	・タイトル ・♀♂の紙 ・劇の用意	音楽（テーマに合ったCD）
①13：55 ②15：35 ［10］	好きな人ができたら	・好きな人ができたり付き合ったりしたら何がしたいかをグループで話し合ってもらう ・なぜそう考えたかを ・インタビューを通してグループでシェアリングする	・人の考えが自分と同じとは限らないことを知る ・接近欲求、接触欲求が芽生える時期であることを知る ・手紙の紹介によって実際に好きになる相手は様々だということを知る ・相手の考えを尊重した上で自己決定をする権利があることを知る	・タイトル ・手紙	音楽（テーマに合ったCD）
①14：05 ②15：45 ［10］	大切なもの	・自分自身にとって大切なものは何か考えてもらう ・ピアっ子自身の大切なものを紹介する ・ハートの紙を使って書き方を紹介する	・自分の周りには自分を支えてくれる人やものがあることに気付ける ・支えてくれる人やものがどんなに大切なものであるか再確認する	・ピアっ子のハートの紙 ・ハートの紙（封筒）	説明 音楽（テーマに合ったCD） 書く ピアノ曲
①14：15 ②15：55 ［5］	振り返り タイトルの説明	・目を閉じてもらい、今日考えてきたことを振り返る ・タイトルに込められたメッセージを伝える	・伝えたかったことをまとめ、共有する ・この時間をきっかけに今の自分、周りの人達の大切さに気付く ・自分が誰かを支え、自分も誰かに支えられているということに気付く	・タイトル ・詩の紙	オルゴール曲 詩を朗読する時は音楽を止める。
①14：20 ②16：00 ［5］	感想	・今日のピアの感想を書いてもらう		・感想の紙	

を綴った感想文を以下に紹介する。

私は、今まで全部「なんとかなるさ」っていう思いで、流されるままに、適当に生きてきたけど、今日のピア（？）を通して、今までの考え方を改めるきっかけとなりました。やっぱりライフラインでも未来に対する考え方があまかったし、今が一番辛いって思っているし、だから遠く先までまわりの人達が未来を見つめることを知って焦りばかり感じてしまいました。

これから毎日後悔しない、楽しいと思えるような生き方をしていきたいし、人生最後の失敗を高校で留めておきたいです。

今日遅れてきたし、めっちゃ緊張してたし、友達も少ししかいなくて、ビクビクしてたけど、みなさんが優しく接してくれて、本当にうれしかったです。

これから受験とかあるし、辛いと思うけど、多分高校生の今よりしんどくなることは少ないはず。やりたいことだけじゃなくて、やらなきゃいけないこともきちんとやって。やるの。やりたいことはその後！！

（プログラムすべてが終了した後に、未来のわたし宛のメッセージから）

これからのピアカウンセリング手法による性教育の模索展望

100年に一度とされるCOVIT-19（新型コロナウイルス感染症）パンデミック下、思春期の若者に焦点をあててみると、今迄何気に通っていた学校が休校で友だちに会えない、毎日家にこもって、家族とだけの生活がうっとおしい。大学に入ったのに、毎日自宅でオンライン講義、同じ学科を選んで一緒に講義を聞く友人ができることを楽しみにしていたのに。新生活を求めて一人暮らしを始めたが、帰省できないので経済的に厳しい。心許しあってなんでも話していた友人にもなかなか会えない……、等々自粛生活下で求められる生活様式の変貌と不安に揺れ動く気持ちのはざまの中で、思春期の若者の心や行動は今後どのように揺れ動くのだろうか？どのような性教育が望まれているのだろうか？

他方マスコミなどで日々報じられる、思春期妊娠、自殺特に女性の自殺、親や恋人からの虐待の増加等々人間関係の崩壊を含めた、感染予防を主軸に抑圧された感情が引きおこす諸問題が噴出している。これらの傾向はCOVIT-19が一定レベルの感染掌握・制御ができるようになっていくまで、さらにクローズアップされていくだろう。

思春期の若者の本音は一体どうなのだろう……と考えていた時に、2020年9月25日の『読売新聞』朝刊に掲載された、とあるビル会社の新聞広告に目が留まった。

コロナ禍で会えなかった友人同士が、久ぶりに画面を通して会うことができた（ZOOMで画面越しで会っている写真掲載）。でも……と、彼女たちはつぶやく。

それでも、人と会いたい、それでも、人と話したい、それでも、人と仕事したい、遊びたい、笑いたい、手をつなぎたい、ご飯を食べたい、ケンカしたい、

それでも人と助け合いたい、人と生きていきたい……。

さらに数日後、地元の地方紙『下野新聞』であるが、東京でカウンセリングセンターを開業しているセンター長の論壇が掲載された。要約すると、

電話で受けつける際に、必ず対面か、オンラインを希望するかを聞く。オンライン設備があるにも関わらず8割の者が対面を希望するという。

そして決死の覚悟で電車を乗り換え、マスク姿でセンターまでやってきた人たちは、透明なアクリル板越しに、同じくマスクをつけた私に向かって、直接こうやってお話ししたかったという。

自宅で誰にも聴かれることなく話せるオンライン環境が乏しいこともあるだろうが、時間と労力を使って訪れ、目の前に同じ空間を共有して存在するというプレゼンス（現前性）こそ望まれていたのだ。

しかし、オンラインというツールを使いこなすことは、目の前に存在する人の抱える問題を誠実に援助するというカウンセリングの可能性を広げこそすれ、何ら矛盾するのではない。

若者の切ないつぶやきと、熟練カウンセラーの言論を重ね合わせてみると、100年に一度というパンデミックの真っ只中にいて、ピアカウンセリングという手法の方向性に一筋の光を見いだせたように考える。さらに深く研究討議し、これからのピアカウンセリング手法による性教育の可能性・有効性を明らかにしたい。

「ありのままのわたしを生きる」ために その後

土肥いつき
京都の公立高校教員。24 時間一人パレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

第4回 「仲間を増やすためには」

2015 年 3 月、大阪府立大学で第 17 回 GID 学会が開かれました。その前月のある日、トランスジェンダー生徒交流会の打ちあげの席で、M さんという方から「来月のトランス全国交流会、どうする？」という話が出てきました。わたしは 2005 年・2008 年と 2 度実行委員をしたので、今回は他の人にやってもらえばいいかなと思っていました。M さんはトランスジェンダーの集まりを主催している方なので「M さんがやればええやん」と言いましたが、M さんは「かかわってほしい」と譲りません。M さんが「うちのグループのスタッフにも手伝ってもらうから」と言われたので、思わずこう答えました。「わたしにはスタッフとかいいひんで」。すると、M さんは驚かれました。なにしろ、トランスジェンダー生徒交流会の打ちあげの場所です。そこには交流会にかかわってくれているたくさんの人がいます。「スタッフ、いっぱいいるやん」と言われたので、そこにいるひとりひとりに「あなたはスタッフ？」と聞きました。すると、自分がスタッフであると答えた人は誰もいませんでした。「ほら、スタッフなんていいひんねん」と M さんに言いながら、とりあえずトランス全国交流会にかかわることにしました。

それから 1 か月、トランス全国交流会の打ち合わせを急ピッチでおこないました。最大の問題は食事でした。ケータリングという案もありましたが、参加人数が読めないので「つくろう」ということになりました。

翌月のトランス全国交流会はたいへんな賑わいでした。参加人数は約 150 人くらい。当初の予想を大幅に上まわる人数です。厨房は大忙しです。飲み物も近くのスーパーに買いに行かなければなりません。そんな交流会を支えてくれたのは、「手伝うよ」と言ってくれたたくさんの人たちでした。なかには遠く徳島からわざわざ交流会を手伝うために来てくれた人もいました。そんな人たちのおかげで、交流会は大成功でした。

考えてみると、わたしはいつもひとりです。それは京都で高校教員をしているということと、もしかしたら不可分かもしれません。例えば人権教育などの全国集会の他府県のレポーターを見ると、会場にはたくさんの仲間がいて、レポート前には励ましの言葉をかけてもらい、レポートが終わったら仲間に囲まれてねぎらいの言葉をかけられる、そんな風景が見られます。でも、わたしがレポートする時に、会場に京都の仲間がいることは、まずありません。ひとりで会場に行き、ひとりでレポートします。終わってから言葉をかけてくれる京都の仲間はいません。そもそも、京都の人で集会に参加している人はほとんどいません。

実は、わたしがやってるさまざまな取り組みは、京都ではマイナーです。だから、わたしはそういう集会には、常にひとりで参加しています。でも、そのおかげでとても身軽です。

例えば、ある全国集会のジェンダーの分科会に参加した時のことです。夜に一緒に呑む相手がいなかったので、しかたなく友だちに電話しました。すると「インクルーシブ教育の仲間と呑んでるから、来る？」と言われました。行ってみると、今まで見たことがない風景が、そこにありました。そこで、たくさんの障害者や保護者から話を聞かせてもらいました。その数年後のことです。ジェンダーの分科会に参加した人たちと一緒に呑んでいましたが、お店の人から「次のお客さんが来たので早く出てくれ」と言われました。二次会のあてもないのでどうしようかとお店を出たら、「次のお客さん」は以前に呑んだインクルーシブ教育のみなさんでした。「お店を追い出されたし、混ぜて」と言うと、快く OK してくれました。結局、ジェンダーの分科会のみんなはそのままお店の中に逆もどり、なんだかカオスな二次会になりました。

ある時、組合の集まりで「仲間を増やすために」というお題を与えられたことがありました。「安心できる組織をつくる」という答を出す人がほとんどのなか、わたしの答は「ひとりになること」でした。ひとりでふらりと誰かのところにいって、仲間に入れてもらう。それこそが仲間を増やすことと、今も思っています。

思いこみのめがね

シゲせんせーのポジティブライフ

鈴木茂義　Suzuki Shigeyoshi

公立小学校非常勤講師。14年間の公立小学校正規教諭、主任教諭を経験。
専門は特別支援教育、教育相談、教育カウンセリングなど。

第33回
「自分たち、いろいろと学んでますから！」
中学生とのやりとりから

先日、自分が大学生活を過ごした街を久しぶりに訪ねました。地上を走っていた線路は高架になり、大学と反対側の駅出口は再開発できれいになっていました。駅前のタワーマンションを見て、街の変化を感じました。

一方で、大学方面の街は大きな変化がなく、「この居酒屋でいつも飲んでいたなあ」、「コンビニの前で夜遅くまで話していたなあ」ということが思い出されました。好意を抱いていた同性の友達に告白しようとしたその瞬間に、「実は俺、彼女ができたんだ」と言われたのもその街でした。あれから20年、思い出は色褪せないものですね。

大学生活を過ごしたその街、講演会に呼んでいただきました。コロナ禍の中でいろいろな講演会が自粛されていたので、私にとっても久しぶりの時間でした。ゲイの自分が大学生活を過ごした街で講演会をやる、そんな未来が来るとはまったく想像していませんでした。過去にさかのぼり20歳の自分に「君は20年後に、この街で市民のかたに向けて多様性について話をするのですよ」と話しかけたら、あのときの私はどんな反応をするでしょうか。

同じく先日、とある中学校を訪ねました。久しぶりに中学生に向けて、LGBTQを起点に多様性や共生社会について話をしてきました。市の人権担当の方と連携して、当日の準備を進めてきました。中学生向け講演会、保護者向け動画撮影、人権担当の方との懇談会と盛りだくさんでした。オンラインでの講演会や授業が続く中で、対面で話し合いができる時間を私も楽しみにしていました。

自分自身のライフストーリーを入り口に、LGBTQについて触れながら、「人には見えても見えなくてもちがいがある」、「自分の中にあるちがいは大切だし、それと同じくらい他者のちがいも大切である」、「誰かのちがいを大切にするということは、自分の中にあるちがいを大切にすることにつながる」といった話をしてきました。

訪れた学校は以前からLGBTQや多様な性について継続して学習してきたこともあり、どの学年も真剣に私の話を聞いてくれたように感じました。

講演会が終わった後に、私から生徒たちに話しかけました。「講演会の内容はどうでしたか。何か今後に役に立ちそうなことはありましたか」と聞くと、「すごく役に立ちました」、「いろいろなことに気づくことができました」と教えてくれました。別の子に「LGBTQの話、びっくりしなかった？」と聞くと、「いや、びっくりしませんね。自分たち、いろいろと学んでますから！」と爽やかに答えてくれました。

子どもたちと多様な性について一緒に考えるときに、「時期尚早だ」、「寝た子を起こすことになる」という声をしばしば聞きます。しかし授業後に子どもたちと話をしていると、そんなことはないなという気持ちになります。

ある生徒は、こんな感想を寄せてくれました。「自分は今まで、LGBTQの当事者の方に、何か特別なことをやろうやろうと考えていました。しかしそうではなく、お互いに大切にし合える行動をすれば大丈夫だということがわかりました」。また別の生徒は、「シゲ先生が社会に向けてカミングアウトをしたときに、とてつもなく勇気が必要だったのではないかと感じました。特定の人にだけ、そのような勇気をもたせる必要がない社会をどうつくっていくか、これから考えていきたいです」と話してくれました。

「私はLGBTQの人たちだけが何か特別な存在で特別なちがいをもっていると思っていました。自分の中にも人とちがう部分があるという話を聞いて、確かにそうかもしれないと。自分のこともっと考えてみたいと思います」と全体で話してくれた子もいました。

自分の話を一方的にするだけでなく、こうして子どもたちとやり取りすると、私も気づかされることが多いです。と同時に、子どもと一緒に社会をよくしていくための取り組みができそうだなという気持ちになります。子どもと一緒にどんなアクションを起こすことができそうか、これからも考えていきます。

多様な性のゆくえ

One side／No side［44］

宮田 一雄
みやた　かずお
ジャーナリスト。公益財団法人エイズ予防財団理事、特定非営利活動法人エイズ＆ソサエティ研究会議事務局長。

「三」の魅力と魔力と説得力

あまりにもだらだらと説得力のない原稿を見かねたのだろうか。駆け出し記者のころ、先輩からこんなアドバイスを受けた。

要点を三つのキーワードに絞り込むといいよ。

確かに走攻守三拍子だとか、日本三大祭りだとか、三つ並ぶと妙にもっともらしく聞こえる。

絞り込むだけでなく、二つあれば、無理を承知で三番手を付け加える手口もありそうだ。「三人娘」や「若手三羽烏」の中に、人気の面でちょっと弱いなあと思う歌い手さんがいたとしても、違和感はだんだん消えていく。これも三の魔力だろうか。

新型コロナウイルス対策の「三密」もすっかり有名になった。密集、密閉……あと一つは何だったっけ？

思い出せなくても三のインパクトは強い。英語でも「３つの C」(closed spaces, crowded places, close-contact）として世界に紹介されている。

当コラムで以前、紹介した「ABC アプローチ」はHIV/ エイズ分野の予防メッセージだった。

Abstinence（禁欲）＝セックスをしない
Be faithful（貞節）＝セックスの相手は一人だけ
Condom ＝セックスするのならコンドーム使用

三段構えの頭文字は、動詞と名詞が混在し、かなり強引な感じもしたが、ABC は米地上波テレビ・三大ネットワークの一つでもある。第一印象の訴求力は高い。

最近は「治療薬による予防効果」が何かにつけて強調されるようになっているが、少し前までは、米国政府も途上国向け予防支援の柱として ABC アプローチを採用してきた。ただし、実際の予防効果はどうだったのかというと、評価はかなり分かれる。そもそも推進役の米国が共和党政権時代にはコンドーム普及にあまり熱心ではなく、メッセージとしての優先順位が A または B に偏っていた。C のコンドームが員数合わせの扱いでは、性感染の防止に有効な「セーファーセックス」の呼びかけも力を削がれてしまう。

さすがにこれではまずいということで、CNN が提唱されたこともあった。こちらはケーブル TV にあやかった Condom、Needles、Negotiation の頭文字。性感染だけでなく、間に注射薬物使用に対するハームリダクションのメッセージとして「清潔な注射針」が入り、最後の N で「交渉」が強調されていた。

異性間にしても、同性間にしても、性行為には互いの関係性が強く問われる。コンドームがあっても相手にその使用を拒まれることもあるだろうし、望まない性行為を強要されるような状況では、そもそもセーファーセックスは成立しない。

したがって CNN のメッセージは三番目の「交渉」が最も重要なキーワードになる。とくに若い女性の性感染がいまなお新規感染の多数を占めるアフリカでは、男女間の社会的、経済的、文化的立場の差が女性の「交渉する力」を妨げ、感染拡大の最大の要因となっていることがしばしば指摘されてきた。

改めて強調するまでもないことだが、感染症対策には医療だけでは解決しない課題がどっさりある。新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の流行に直面してもなお、そう思っていない人もいるかもしれないので、一応、指摘しておこう。

日本ではこの秋、三助がにわかに注目された。自民党総裁選で菅義偉首相（当時は官房長官）が理念として掲げたからだ。

試みに「三助」をネットで検索したところ、お風呂屋さんの「さんすけ」が上位にずらっと並んだ。キーワードの選び方が悪かったか。そちらではなく、自助、共助、公助の「さんじょ」です。

江戸時代の米沢藩主、上杉鷹山が掲げた理念だという。首相は、米沢のある山形県のお隣の秋田県出身なので、もともと親しみがあったのかもしれない。

コミュニティが中心的な役割を担う共助は、NPO 法人などもよく使っていた。ただし、為政者が使うと言葉の雰囲気が微妙に変わってしまうので、「三助はもう使いたくない」という NPO のメンバーもいる。時代をあえて「総合的、俯瞰的」にみると、その気持ちも分からないわけではない。改めて言葉は難しいと思う。

BOOK GUIDE
今月のブックガイド

元女子高生、パパになる

杉山文野著
文藝春秋
定価 1400 円＋税

「新しい家族」の記録

『元女子高生、パパになる』奇をてらったようなタイトルの本書であるが、誰しもが困難を抱えて生きていかざるを得ない人生、そこでぶち当たった課題にどう向き合い、どのように乗り越えていくかを、これほど爽やかに語り綴った本もないだろう。読み進めていくうちに著者がトランスジェンダーかどうかはむしろ副次的な要素になる。

まずは、その屈託のない語り口がいい。例えば、著者がLGBT のイベントのスタッフを経験したときの回想。

「批判的な意見があがれば、できる限り以上にこちらから足を運び、顔を見て対話を繰り返した。

とにかくみんな怒っていた。

僕はひたすら謝った。

しかし、話をじっくり聞きつづけているうちに、それぞれの事情がより詳細に見えてきた」

そう、こういう著者の誠実で前向きなキャラに、2010 年代に展開された LGBT の運動は牽引されたといっても過言ではない。肯定的であることこそがダイバーシティが喧伝させる時代の空気感であり、求心力であった。自己否定と自己肯定とのせめぎ合いのなかで自身の立ち位置を確保していかざるを得なかった先行世代とは、そこが違う。そして、その圧倒的な肯定性こそがまさしく、彼が体現したものであった。

しかし本書を読むと、そうした屈託のなさは、彼が自ら選んだ「ハッピー担当」という作られたキャラの側面でもあったのだ。現実の彼は仕事に悩み、恋人との関係の危うさに右往左往する「ふつう」の 30 代の青年だった。

たしかに「トランス男性」の彼が、彼女との関係を先方の親御さんに認めてもらうというエピソードは、世間的には突飛な話かもしれない。けれど、自分の子どもの配偶者（の条件）を受け入れられない親なぞいくらでも世間にいて、それは、親の望むように子どもは育たない、という普遍的なテーマでもある。

処女作『ダブルハッピネス』以降の歩みを綴ったこの本は、杉山文野という稀有のアクティヴィストが歩んだ青春ストーリーであるとともに、2010 年代を席巻したLGBT 運動の一次資料としての証言であり、また、彼の配偶者と、精子を提供した親友を含めての「新しい家族」の記録でもある。

だが、本書の魅力はそうしたマイノリティ本の枠にとどまらない。屈託がないだけではない著者の思慮深さは、自身の経験をビジネス書としても、あるいは自己啓発本、政治運動論としても使えるようにしている！

「対話を繰り返すことと同じくらい大事にしているのが、『理想と現実』の見極めと、課題との向き合い方だ。（略）僕はいつも自分に、こう問いかけている。

その課題を解決したいのか？

それとも『僕が』解決したいのか？

このふたつは似て非なるものだ」

著者らが担った 2010 年代の LGBT の運動は、多様性と包摂の旗の下、具体的な施策や制度改編の端緒を得た。そして 2020 年代はそれがさらに推し進められていくはずだ。けれど、制度や法のなかに踏み込むほど、利害の対立は激しくなり、「差別」や「人権」といった印籠だけでは解決され得ない状況に直面するだろう。昨今、世界的に注目されている、何を持って「男」とするか「女」とするかの論争、「性別の再定義」をめぐる問題などまさにそうだ。

だが、そうした難問にぶつかった時こそ、著者がこれまで培ってきた柔軟で現実的な思考が活かされるはずだ。「いつだって正義の反対は正義だった」と看破する彼なら、異なる価値観を持つ人々の間の、ギリギリの落とし所を見つけることができる、と期待したい。

（作家　伏見憲明）

研究会、研修会等の情報を下記まで、郵送または、
メール（info_jase@faje.or.jp）でお寄せください。
〒112-0002　文京区小石川2-3-23春日尚学ビルB1
日本性教育協会「JASE ジャーナル」係

性教育アカデミー2020

日本性教育協会（JASE）協賛

〈教育・支援〉を再考するワークショップ

性教育をめぐる哲学的対話

2021年1月24日（日）

会場　　オンライン開催
レクチャー　午前10時～午後3時半
ワーク　　午後 3時半～午後5時

zoom

講師
- 藤岡淳子（大阪大学教授・司法犯罪心理学）
- 野坂祐子（大阪大学准教授・発達臨床心理学）
- 吉田博美（駒澤大学学生相談室・臨床心理学）
- 東　優子（大阪府立大学教授・性科学）

参加費　6,000円

キャンセル不可。都合により当日参加できない場合も、生配信終了後1週間程度、録画（ただしレクチャーのみ）を視聴していただくことが可能です。

参加方法

1. 参加をご希望の方は、①お名前、②ご所属、③連絡先（メールアドレス）を 事務局・吉田までお送りください。【一次締切：12月25日(金)】
2. 銀行口座情報をお送りしますので、1月10日までにお振込ください。
3. 入金が確認できた登録者のメールアドレスに、事務局より当日（生配信）用のURLをお送りします。
4. 生配信終了後、登録者全員に録画を視聴するためのURLをお送りします。

申込み・問い合わせ先（SEE事務局）：kansaishy@gmail.com

2006年から、日本性教育協会（JASE)の委託で「関西性教育研修セミナー」を企画・運営。10年を経た頃、それまでの経験と実績を活かし、より広く性教育の学びの場を提供していくことを目的として「SEE教育アカデミー」をスタートさせ、以来、海外スタディツアー（ハワイ、フィンランド、メキシコ)なども企画。過去の活動については、『関西性教育研修セミナー10 周年記念誌 性について、語る、学ぶ、考える』(日本性教育協会, 2017)をご参照ください。

ちなみに、2006年の記念すべき第1回セミナー「子どもの性の安全・性の健康」の講師は、今回と同じ、藤岡淳子教授でした。

Sexuality Education and Empowerment

性教育を次世代へ
性の健康をすべてのひとに

SEE教育アカデミー
January 24　2020

10:00	15min	イントロダクション・動作確認
10:15	30min	講義1「正しい知識・正しい理解」をめぐる哲学的問い（東優子）
10:45	30min	ダイアローグ1（藤岡×野坂×吉田）
11:15	5min	Break（休憩）
11:20	30min	講義2 セクシュアル・プレジャーと性の権利（東優子）
11:50	30min	ダイアローグ2（藤岡×野坂×吉田）
12:20	40min	Break（休憩）
13:00	60min	講義3 グッドライフにつながる関係性・性的同意 ーポジティブ・アプローチからー（藤岡淳子）
14:00	60min	講義4 教育・支援の現場で起こること（野坂祐子・吉田博美）
15:00	10min	Break（休憩）
15:10	15min	ダイアローグ4（藤岡×東×野坂×吉田）
15:30	90min	グループワーク（参加者全員）
17:00	ー	終了

藤岡淳子／Junko FUJIOKA, PhD　大阪大学大学院・教授（専門：司法犯罪心理学）。少年鑑別所、少年院、刑務所で20年間、非行少年・受刑者の査定と教育に携わった後、2002 年から現職。専門は、非行・犯罪心理臨床。現在は、児童相談所、児童自立支援施設、刑務所などで、非行や犯罪行動のある少年と成人の教育プログラムの実施およびスーパーバイズを行うほか、一般社団法人もふもふネット代表理事として、コミュニティにおける性暴力への介入実践を行っている。著作は、「性暴力の理解と治療教育」(誠信書房)、「アディクションと加害者臨床」「治療共同体実践ガイド」(いずれも金剛出版)、「司法・犯罪心理学（近刊：有斐閣）など多数。

東優子／Yuko HIGASHI, MSW, PhD　大阪府立大学大学院・教授（専門：性科学・ジェンダー研究）。フルブライト奨学生として留学したハワイ大学大学院でソーシャルワークを専攻すると同時に、性と社会太平洋研究所（PCSS）でミルトン・ダイアモンド博士に師事し、性科学を学ぶ。WAS（旧・世界性科学学会）役員。日本性教育協会（JASE）運営委員。SEE共同代表。

野坂祐子／Sachiko NOSAKA, PhD　大阪大学大学院・准教授（専門：発達臨床心理学）。臨床心理士。トラウマインフォームドケアの観点から、性暴力への介入や研究を行う。日本性教育協会（JASE）運営委員。特定非営利活動法人ぷれいす東京・スタッフ。一般社団法人もふもふネット・スタッフ。SEE共同代表。

吉田博美／Hiromi YOSHIDA, PhD　駒澤大学学生相談室・常勤カウンセラー（専門：臨床心理学）。臨床心理士。武蔵野大学心理臨床センター客員研究員。性暴力・性虐待被害者の心理療法を行う。米国ペンシルベニア大学不安障害治療研究センター認定Prolonged Exposure Therapyスーパーバイザー／セラピスト。SEE事務局長。

►►2021年1月8日（金）～17日（日）　オンラインで開催◄◄

セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会2021

～つながりから見えるこれからの実践～

◆主なプログラム◆

1月8日（金）15:00～16:30
LGBTQが働く環境を、内側から変えていく～従業員主体による企業内支援の実践
今将人（損保ジャパン）吉村美音（freee）川田亜紀子　林健太郎（ベルシステム24）

1月9日（土）10:30～12:00
レズビアン・バイセクシュアル女性の健康～医療者に知っておいてほしいこと・当事者が知っておくとよいこと　藤井ひろみ（大手前大学）

1月9日（土）13:00～14:30
LGBTに関する国内最新のデータ～当事者を対象にした結果から　日高庸晴（宝塚大学）

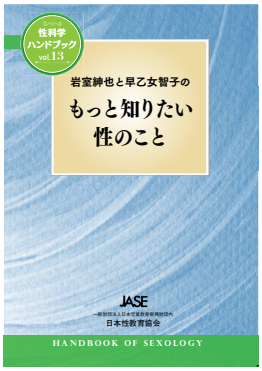
1月15日（金）10:30～12:00
多様性をベースにしたHIVの予防教育（ワークショップ）　るん（尾澤るみ子）けいこ（徳永桂子）

1月15日（金）15:00～16:30
自治体のLBGT施策のゆくえ　瀧谷祐介（淀川区）山田賢（明石市）

1月16日（土）15:00～16:30
性教育教材プロジェクト～「性別思い込みあるある」の実践報告　新設Cチーム企画先生たち

1月17日（日）12:00～13:00 オンライン交流会　大会参加者

問合せ先等　〈主催〉セクシュアルマイノリティと医療・福祉・教育を考える全国大会2021実行委員会
詳細は、https://queertaikai2020.wixsite.com/2021/



性科学ハンドブック Vol.13　**好評発売中！**

岩室紳也と早乙女智子の
もっと知りたい性のこと

岩室紳也・早乙女智子著　◆A5判：138頁　頒価700円

『現代性教育研究ジャーナル』2014年4月号～2017年3月号に連載した「もっと知りたい女子の性／もっと知りたい男子の性」に、加筆・訂正して再構成したものです。

主な内容

part 1　多様な性／「性」を科学する難しさ／女は女として生まれない／性別違和／ジェンダーバイアス・ジェンダーギャップ　ほか
part 2　女性の性／膣VAGINAはくぼみである／女子もします！　マスターベーション／人工妊娠中絶と女性の身体権　ほか
part 3　男性の性／「包茎」を科学する／男子はおちんちんで育つ／「男」は環境で育つ性／男性の性機能って何？　ほか

著者プロフィール

岩室　紳也／泌尿器科医。ヘルスプロモーション推進センター（オフィスいわむろ）代表。AIDS文化フォーラムin横浜運営委員。
早乙女智子／産婦人科医。公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター研究員、日本性科学会副理事長。セックスセラピスト。

既刊〈性科学ハンドブック〉

☆性科学ハンドブックVol.11『思春期の性衝動～男の子の性を考える～』A5判・78頁400円
☆性科学ハンドブックVol.12『腐女子文化のセクシュアリティ』A5判・96頁500円

※送料等は、ホームページを参照してください。
◆JASEホームページ https：//www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html からお申し込みいただけます。
または、Email　info_jase@faje.or.jp
TEL 03-6801-9307　FAX 03-5800-0478

すぐ授業に使える

性教育実践資料集

中学校改訂版

ロングセラー『性教育実践資料集〈中学校版〉』の改訂新版です。性教育の経験が浅い先生でも、すぐに計画立案・授業実践が行えるように、実践例をもとにした具体的な指導案と教材・教具を多数紹介しています。個別の指導事例や学校・地域社会での指導事例、現代の学校における性教育の考え方、進め方もよくわかります。

〈主な内容〉

第１章　中学校における性教育（性教育を実践するにあたって／性教育の目的と意義）

第２章　性教育の実践（性教育の現状と実践の課題／学習指導要領における性教育の取り扱い／性教育の指導体制／指導計画の作成／性教育実施上の留意点／家庭・地域との連携／中学校の性教育の今後に向けて）

第３章　指導事例（各学年における指導計画と指導の流れ／８つの１年生の指導事例／６つの２年生の指導事例／６つの３年生の指導事例／７つの個別指導事例／５つの組織の指導事例）

第４章　参考資料（性行動経験率／性的なことへの関心割合／自慰経験率／性的関心の経験割合の推移／性へのイメージ／性感染症報告数の推移／梅毒患者報告数の推移／HIV・エイズ感染者の動向／人工妊娠中絶実施率及び推移／用語解説）

本体 2,000 円＋税　B5 判・224 ページ

好評発売中！

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会　　発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！

「若者の性」白書

第８回　青少年の性行動全国調査報告

全国の中学生・高校生・大学生を対象にし、1974 年から６年ごとにおこなわれてきた「青少年の性行動全国調査」。第８回（2017 年）調査をもとに、青少年の性にかかわる実態にどのような変化が起こっているのか？　などを的確にレポート。検討・分析のための貴重な論文・データ書！

主な内容

序　章　第８回「青少年の性行動全国調査」の概要
第１章　変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
第２章　青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
第３章　家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
第４章　知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
第５章　青少年の性行動と所属集団の性行動規範
第６章　青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
第７章　性的被害と親密性からの／への逃避
第８章　青少年の性についての悩み
～自由記述欄への回答からみえるもの～
付表Ⅰ　「青少年の性に関する調査」調査票
付表Ⅱ　基礎集計表（学校種別・男女別）

＊コラム

1…性情報について
2…性教育をめぐる近年の社会的動向
3…LGBT 学生について
4…男性の性的被害
5…「青少年の性行動全国調査」の困難と課題

好評発売中！

本体2,200円+税
Ａ５判 256ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会　　発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！